

平成22年度事業計画 及び歳入歳出予算(案)の概要

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

I . 事業計画について

血液センター(Blood Center)の概要

血液センター・・・地域における血液事業の拠点

血液センター数・・・47都道府県に66カ所

出張所・・・144カ所(献血ルーム112を含む)

(平成22年1月1日 現在)

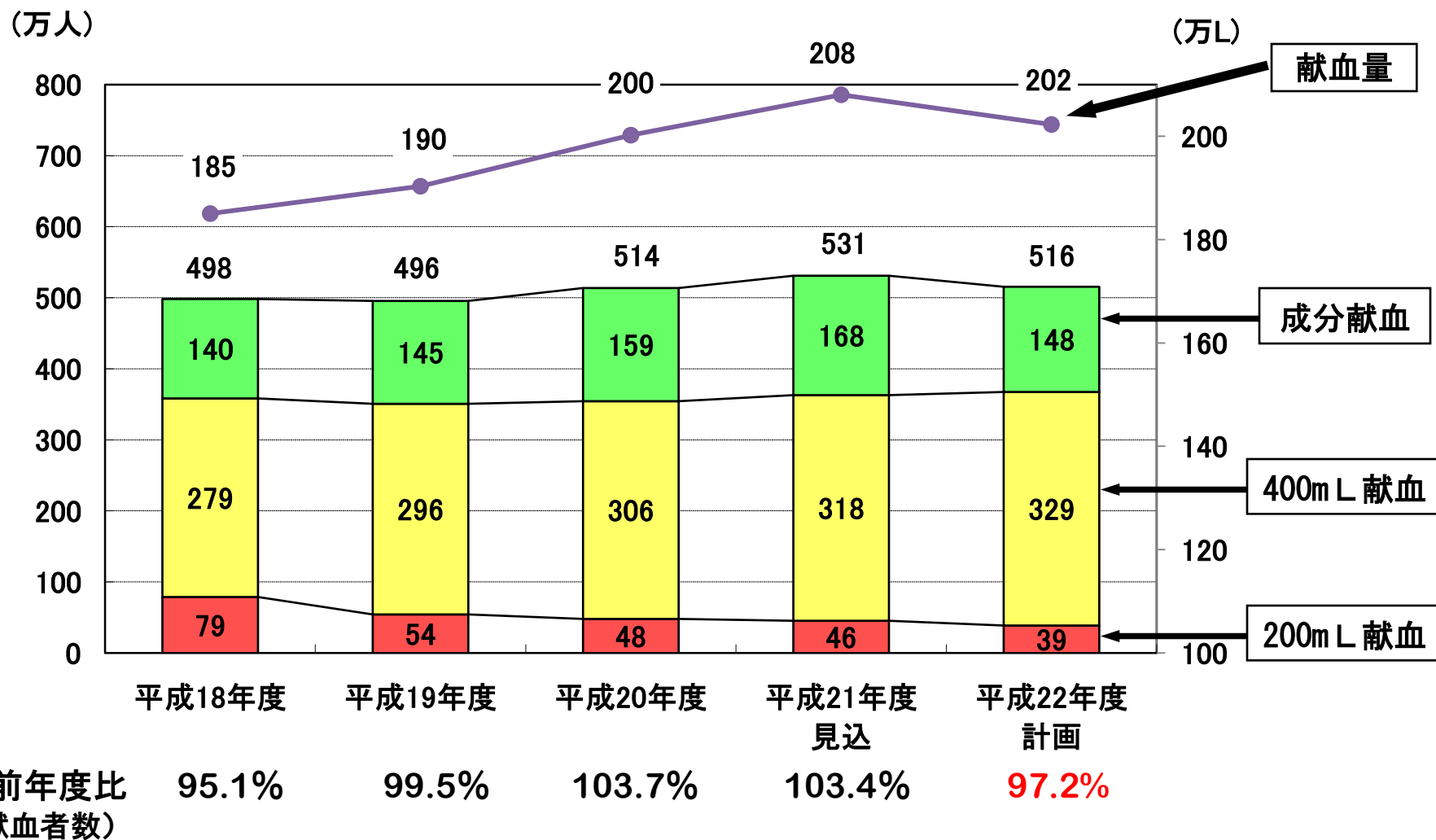
車両・・・移動献血車297台、献血運搬車770台

(平成21年10月31日 現在)

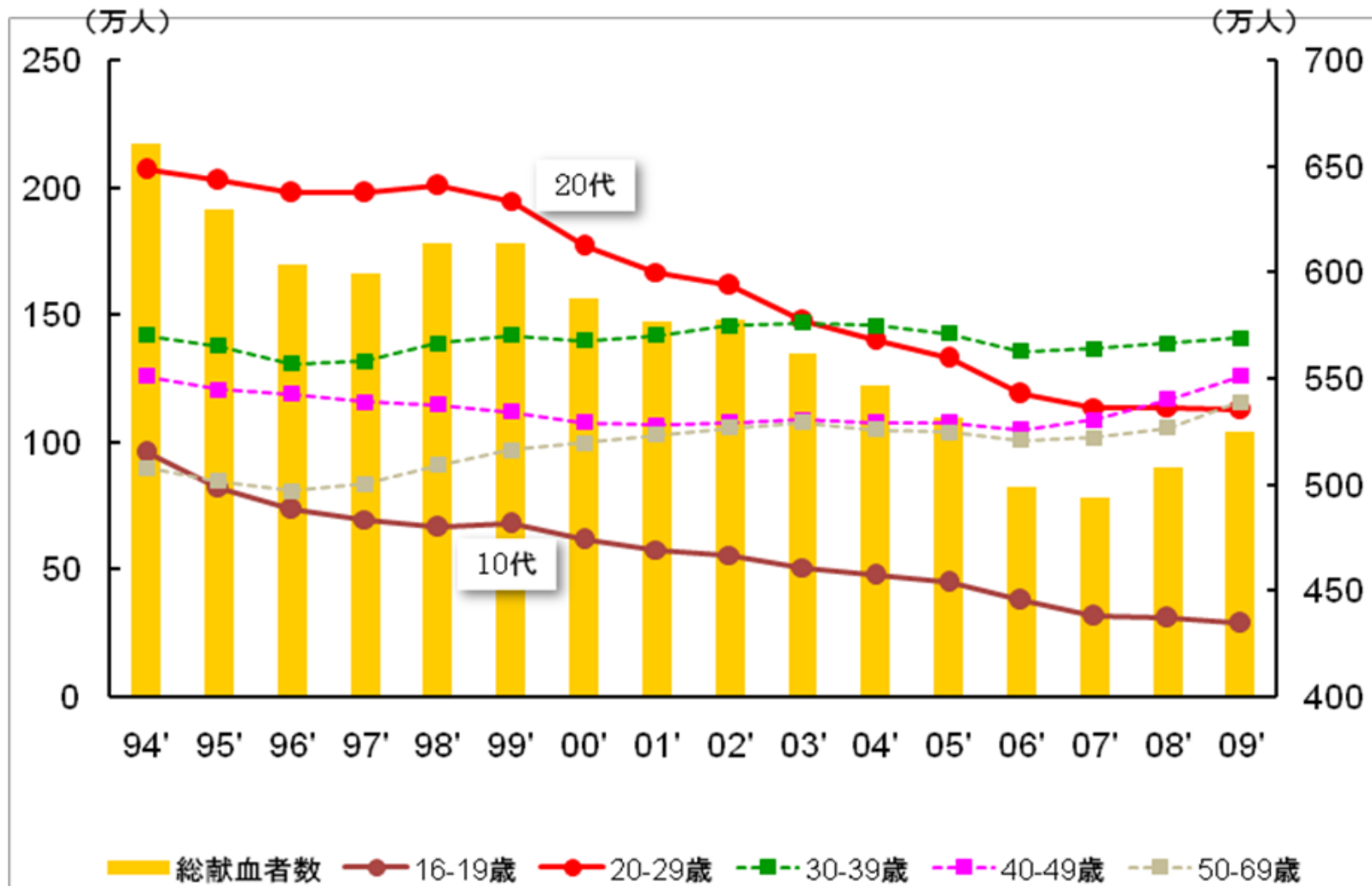
- 業務・・・
1. **採血業** (献血者からの採血)
 2. **製造業** (検査と血液製剤の製造)
 3. **販売業** (医療機関などへの供給)

1. 血液事業における採血業 (献血者からの採血)

献血者数及び献血量の実績と計画



年代別献血者層の推移



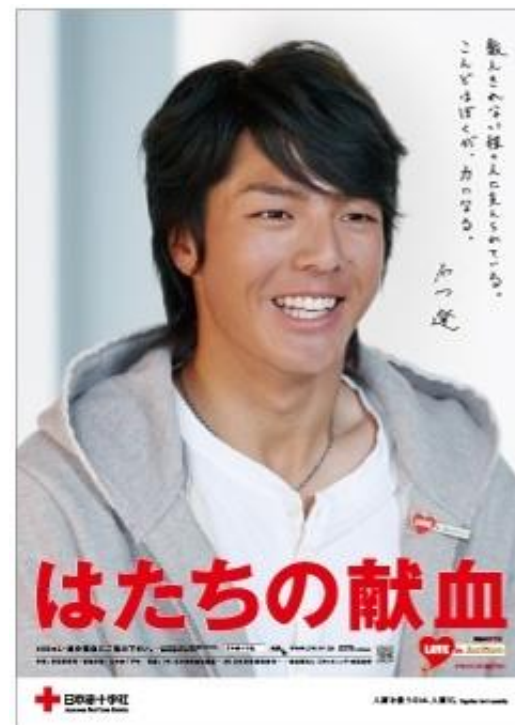
10代・20代の若年層献血者が減少

献血者の確保対策

(1) 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者といった普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を行うこととし、これを「献血構造改革」と位置付け、取組みを行うよう努めます。

- ・若年層を対象とした推進対策
- ・献血者の年齢層に応じた推進対策
- ・企業等における推進対策
- ・複数回献血協力者の確保
- ・献血推進キャンペーン等の実施



(2) 安心して献血ができる環境の整備

・献血バスや献血ルームのイメージアップ

機能面の充実を含め、なお一層のイメージアップを図ります。



・低比重者への対応

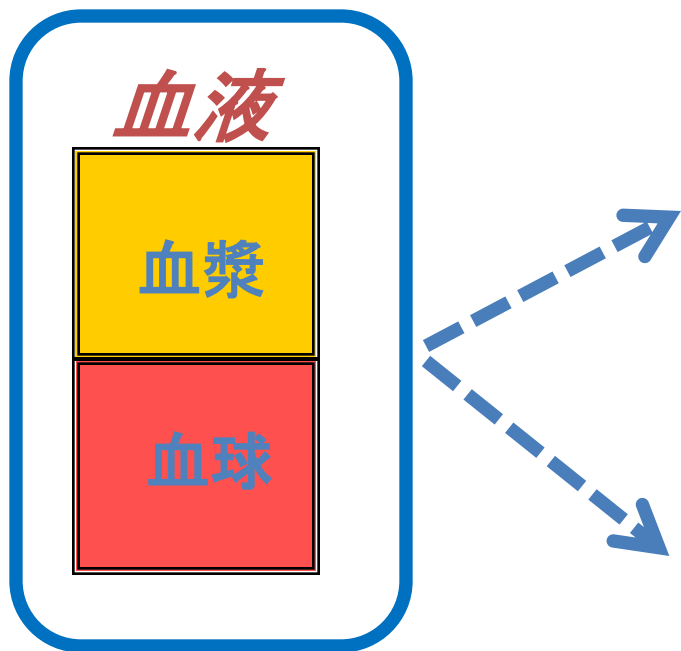
低比重やその他の理由により献血できなかった方に、献血ルームでの栄養相談、健康相談等のサービスを充実させ、普及啓発を図ります。

・初回献血者への対応

初めて献血をする方の不安等を払拭するため、安全確保にあたる者の確保や献血の手順等のビデオ映像を視聴していただき、採血副作用の防止に努めます。

2. 血液事業における製造業 （検査と血液製剤の製造）

主な血液製剤



(1) 輸血用血液製剤

①全血製剤

②赤血球製剤

③血小板製剤

④血漿製剤



(2) 血漿分画製剤

①日赤ホリグロビン注5%

②赤十字アルブミン

③クロスエイトM

④抗HBs人免疫グロブリン



血漿分画製剤は北海道千歳市の
血漿分画センターで製造しています。

安全対策

・輸血用血液製剤の感染性因子低減化技術導入に向けた検討

薬剤を添加して紫外線を照射するなどの方法により、混入した病原体の感染性を低減する技術について、今年度も、国の血液事業部会等での審議結果に基づき、導入に向けて、安全性、有効性、品質の確認、血液事業に対する影響の評価、臨床試験の実施に向けた準備等を行います。

・輸血関連急性肺障害 (TRALI) 対策の検討

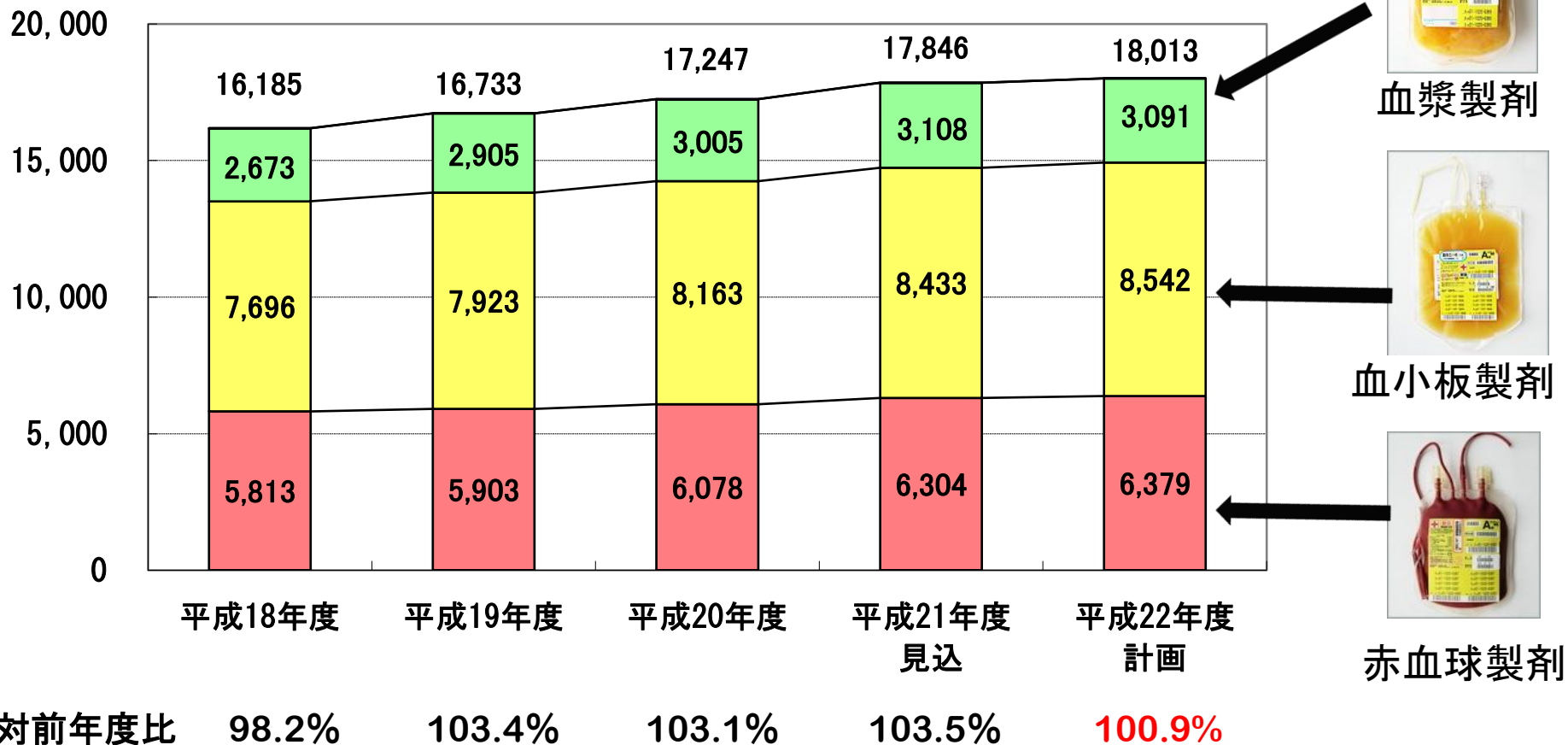
輸血後副作用であるTRALIの対策として、基幹センターで男性献血者からの血液を主体とした新鮮凍結血漿の製造の試みを行っています。今後は基幹センター以外の血液センターにおいても安定供給に支障をきたさない場合は実施していきます。



3. 血液事業における販売業 （医療機関などへの供給）

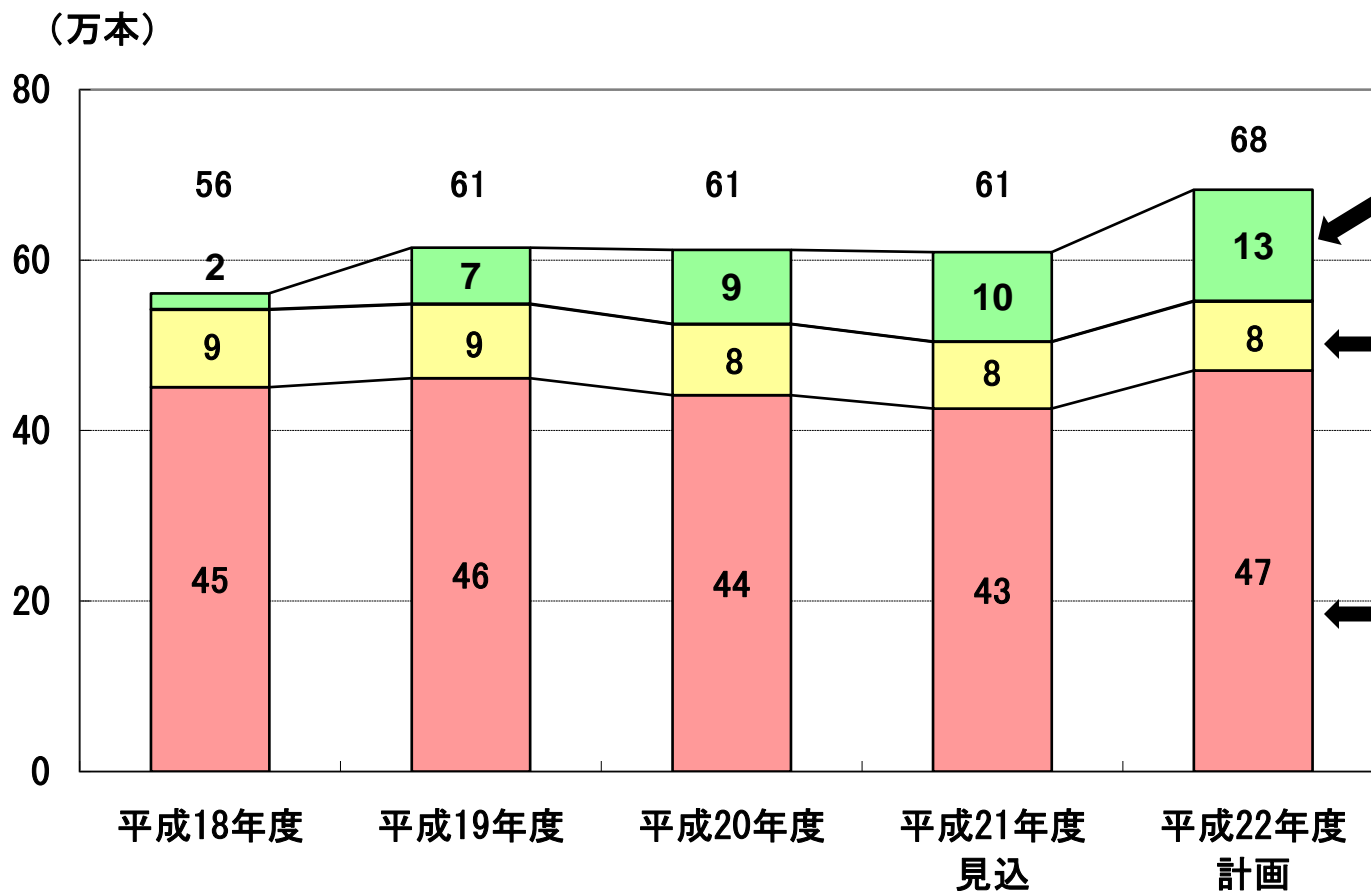
輸血用血液製剤の供給実績と計画

200mL換算
(千単位)



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

血漿分画製剤の販売実績と計画



日赤ポリグロビンN



クロスエイトM



赤十字アルブミン

※抗HBs人免疫グロブリンは販売量が少量のため、グラフ上に表示されません。
 ※日赤ポリグロビンN注5%は、2.5g/50mL換算
 クロスエイトMは、1,000単位換算
 赤十字アルブミンは、25%50mL換算

血漿分画製剤の国内自給率

アルブミン製剤 **60.5%**
 グロブリン製剤 **95.9%**

4. 広域事業運営体制の構築

現在の血液事業の課題

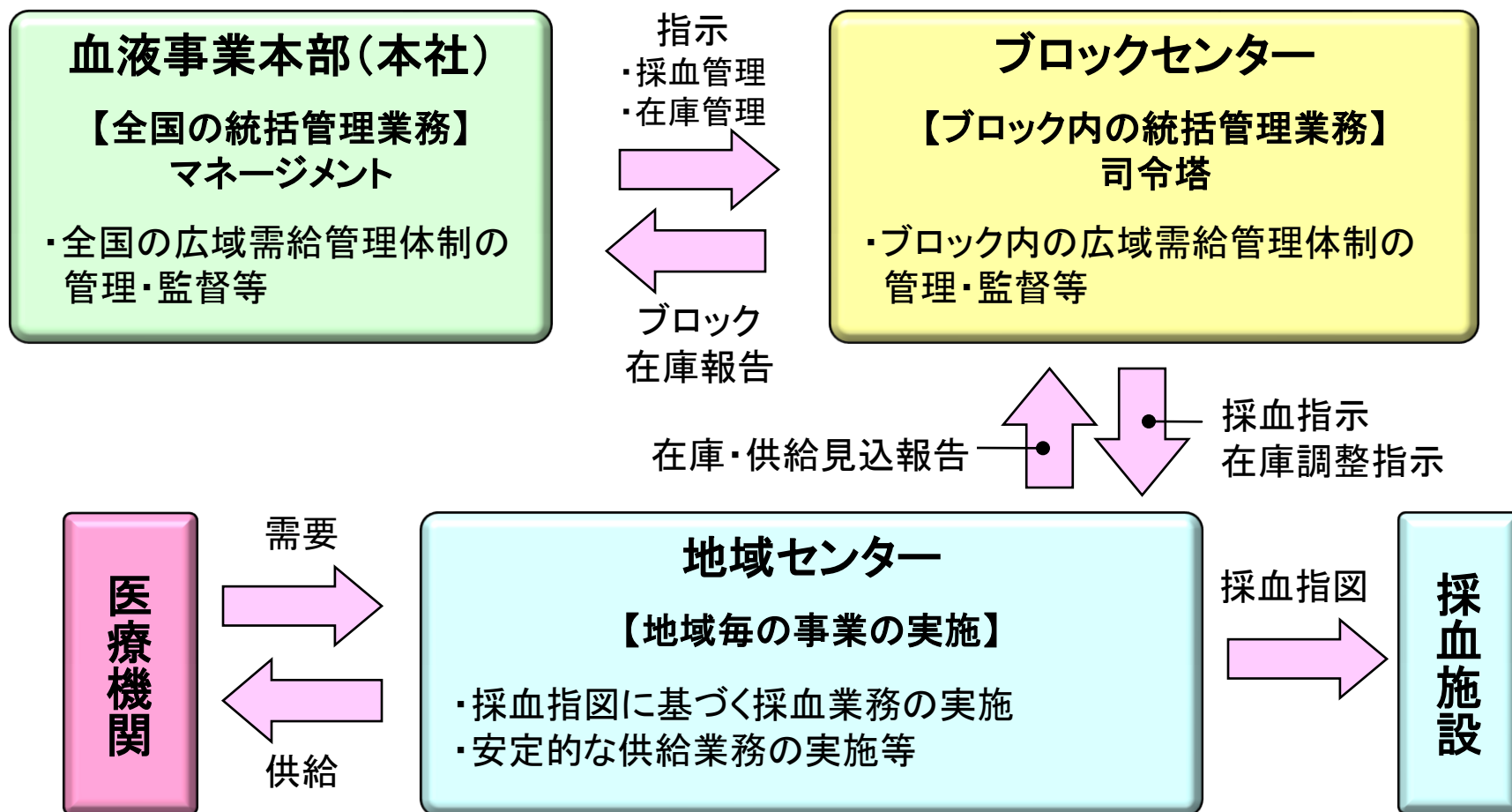
- (1) 小規模血液センターの不安定な在庫状況
- (2) 今後の少子高齢化の更なる進展
- (3) 地域間較差の拡大による需給の不均衡
- (4) 新たな安全対策費用の増加
- (5) 結果として非効率な経営や財政の悪化

都道府県単位の事業運営は困難

広域事業運営体制導入への取り組み

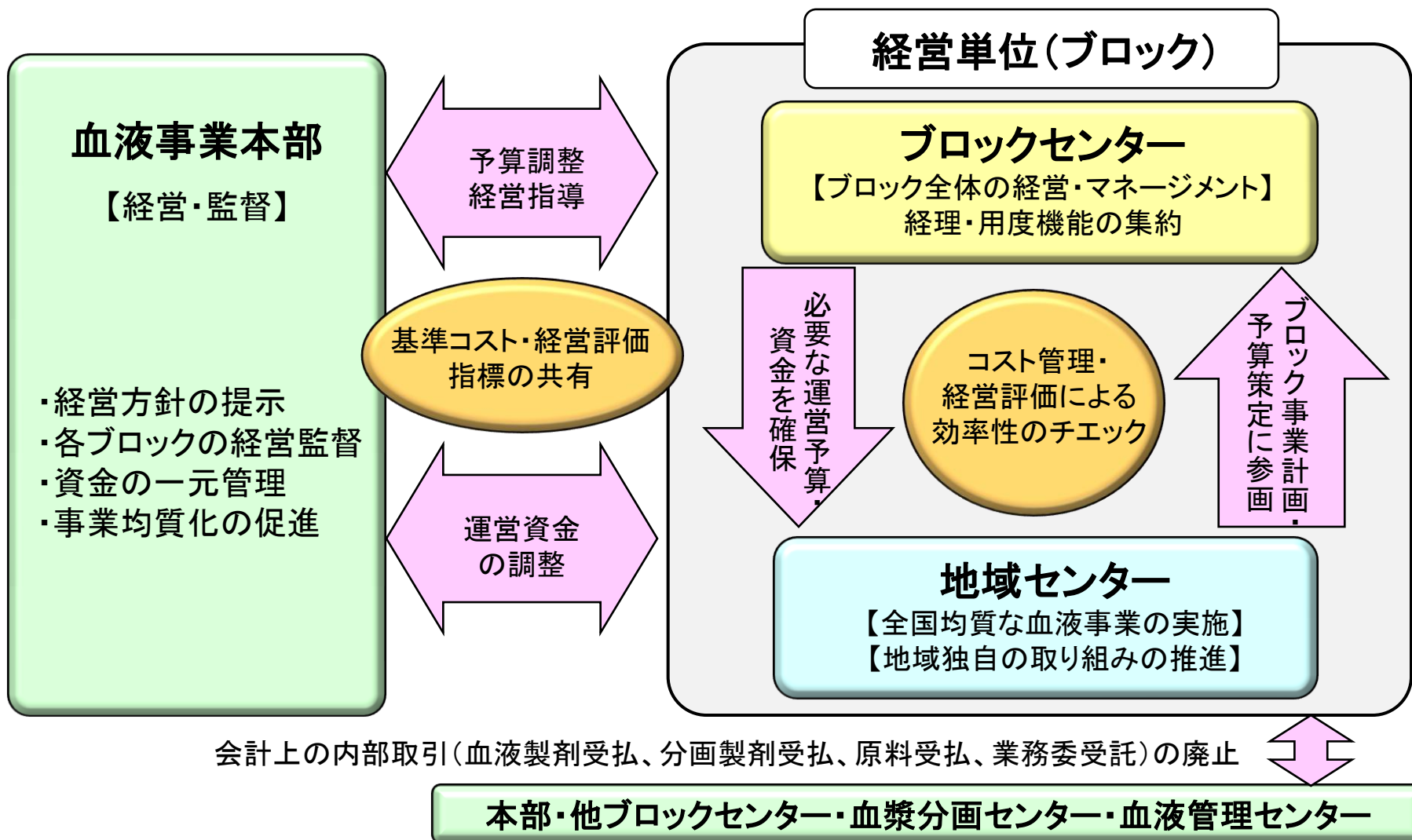
(1) 広域需給管理

広域需給管理の概念図(案)



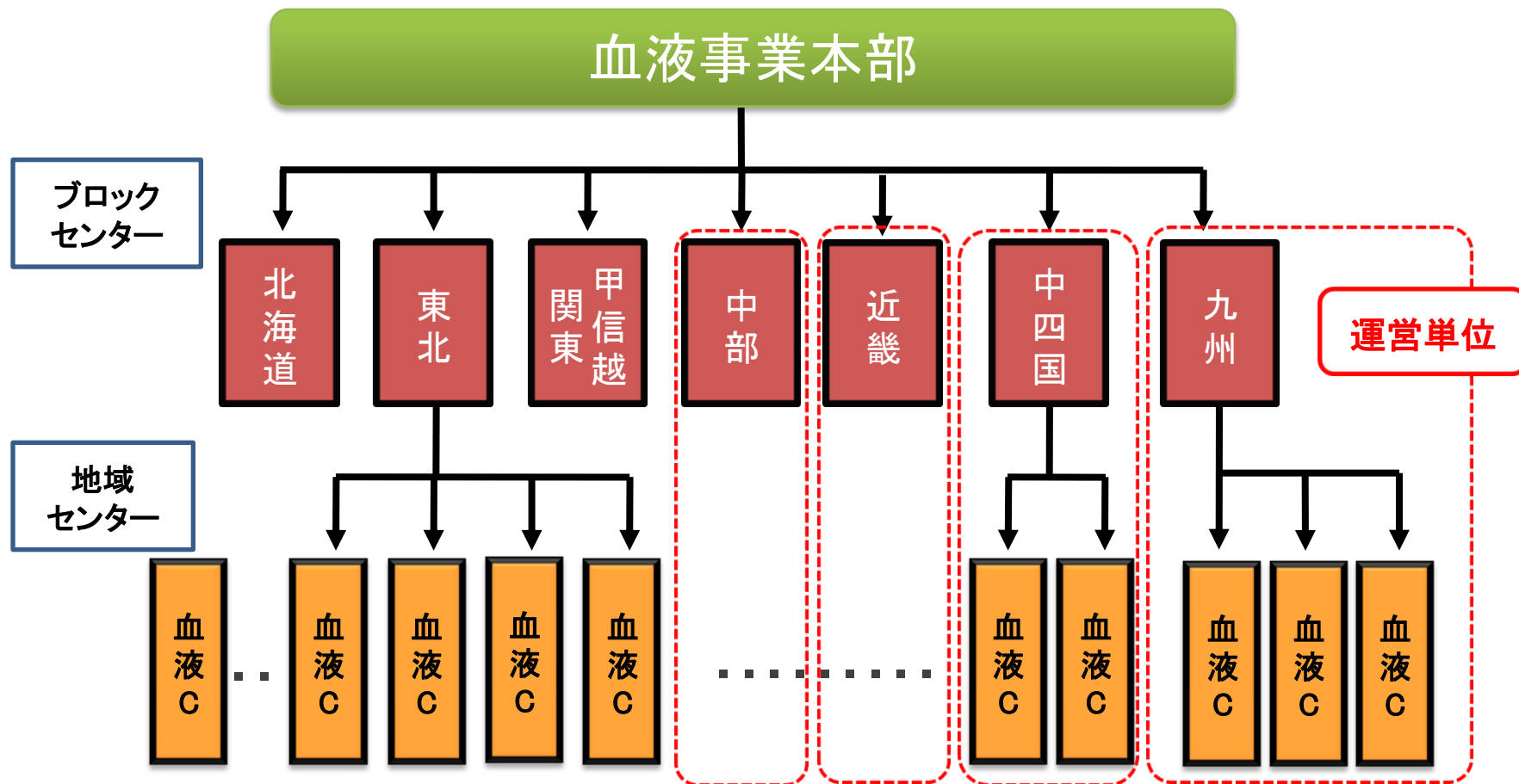
(2) 財政一元化

財政制度の概念図(案)



(3) ブロック単位での事業運営

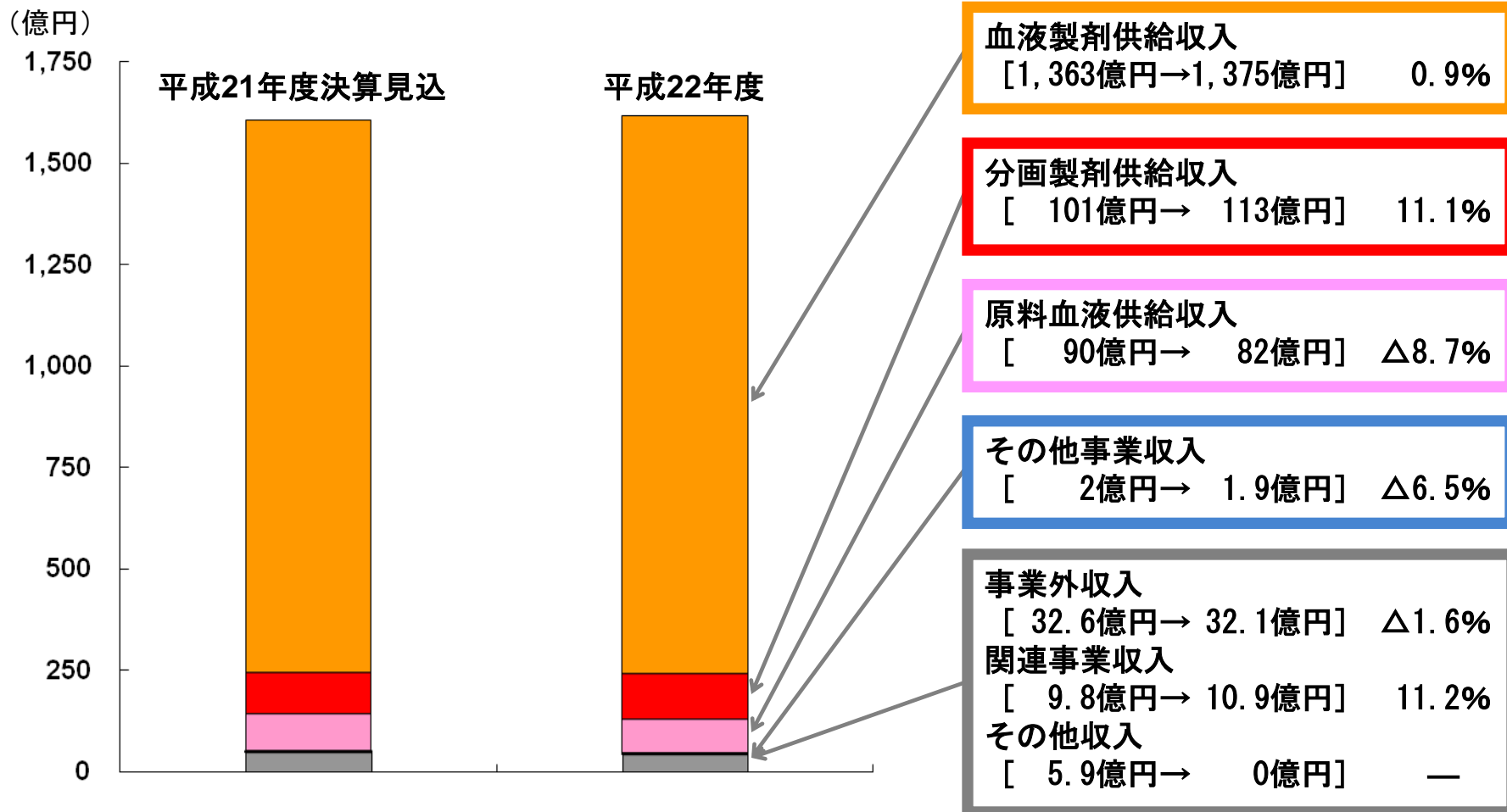
組織の概念図(案)



- ・ 各都道府県センターを7ブロックにエリア分け。
- ・ ブロックセンターを新設する。

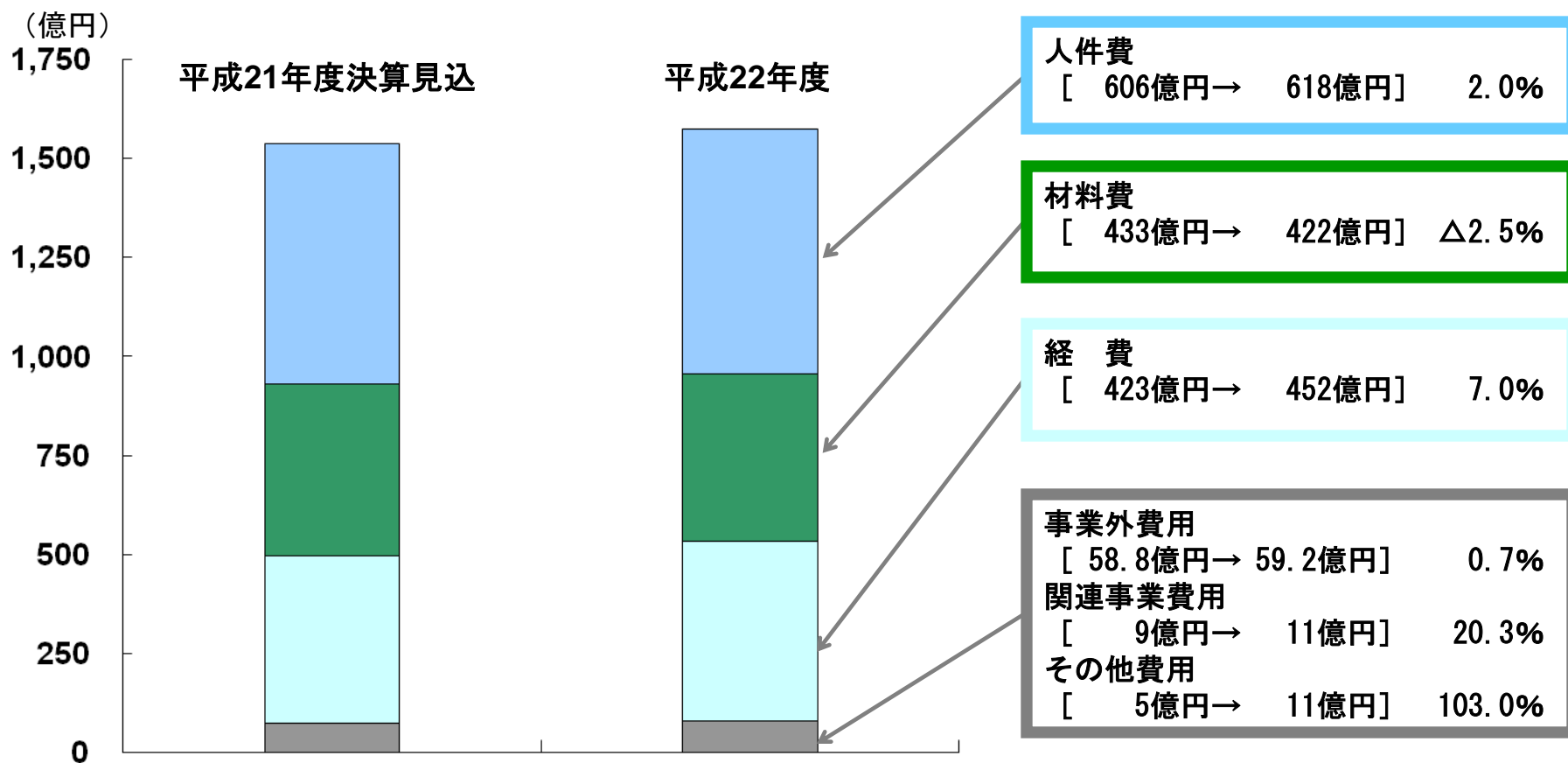
Ⅱ. 歳入歳出予算(案)

血液事業特別会計 収益的収入のあらまし



	平成21年度決算見込	平成22年度	増減率
収益的収入合計	1,606億円	1,616億円	0.6%

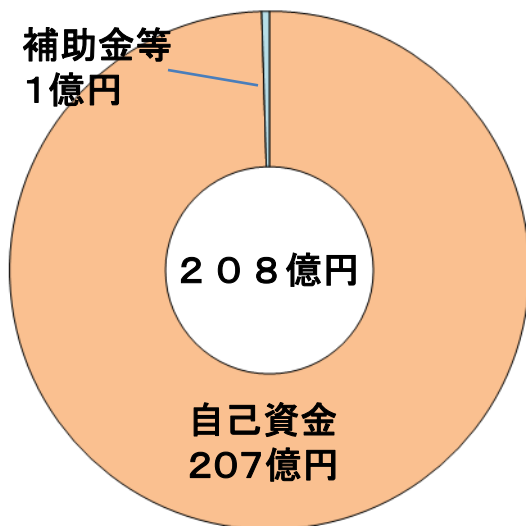
血液事業特別会計 収益的支出のあらまし



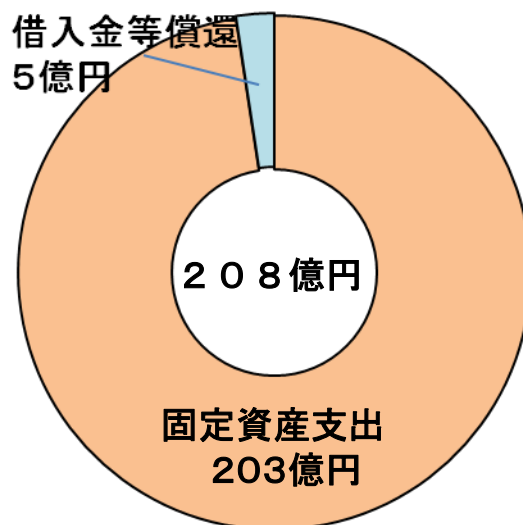
	平成21年度決算見込	平成22年度	増減率
収益的支出合計	1,538億円	1,576億円	2.5%
収支差引額	67億円	40億円	
黒字施設	32施設 90億円	41施設 47億円	
赤字施設	18施設 △23億円	9施設 △7億円	

血液事業特別会計 資本的収支のあらまし

【収入】



【支出】



製造集約施設イメージ



固定資産支出・・・施設整備計画

内 容	金 額
大規模集約施設建設などの施設整備等	122億円
検査装置などの機器整備	25億円
献血運搬車、移動献血車などの車両整備	9億円
その他有形・無形固定資産 (次期血液事業統一システム開発等)	47億円

検査装置イメージ

